

死は勝利にのまれた

(ルカ7・11～17)

一、ナインの町で

主イエスがガリラヤの町ナインに近づかれると、やもめとなった母親のひとり息子が、死んで棺に入れられ、担ぎ出される所でした。母親は泣いていました。町の人たちも母親に付き添い、母親を慰めようとし、一緒に泣いていました。12節です。イエスが町の門に近づかれると、やもめとなった母親のひとり息子が、死んでかづぎ出されたところであった。町の人たちが大ぜいその母親につき添っていた。とあります。

死は、時として残酷です。親よりも先に子供が死ぬ、親よりも先に息子娘が死ぬ。考えただけでも、ぞつとします。その反対もたいへんです。ハンディキヤップを背負った息子や娘を残して、親が先に死んでしまうのも、残された子がどうなるのかと思うと、ぞつとします。死は、厳しい現実を私たちに突き付けます。

聖書に戻りましょう。ここに登場する母親は、夫に先立たれ、ただ一つの望みであった息子にも先立たれてしまいました。どうやって慰めることができないでしょうか。できません。ですが、放っておくこともできません。それは、昔も今も、時代と文化を超えて同じです。さて、その場面に主イエスが出くわさ

れました。イエスという方は創造主なる神が遣わされたお方で、神であり、人であられました。ということは、ひとり息子を亡くして途方に暮れている母親に神が出会った、という構図になります。神は、イエス・キリストをとおして母親に何を思ったのでありましょうか。13節をご覧ください。〈主はその母親を見てかわいそうに思い、「泣かなくてもよい」と言われた。〉と書かれています。

これはおそらく翻訳しきれない言葉の一つかと思われまます。〈かわいそうに思い〉の元の言葉は「スプラグニゾマイ」で「はらわたが動かされる」の意味です。神が人となられ、人間社会に住まわれると、どのようなことをなさるのでしようか。それは、痛んでいる人を見ると放っておけない、はらわたが痛むほど同情される、と知ります。ですが、そこまでなら、私たちでもある程度までできるかもしれません。ですがそれ以上はできません。神は何を為さつたでしょうか。第一は、憐れまれたこと、すなわち「はらわたが痛む」ほど同情されたことです。第二は「泣かなくてもよい」と言われたことです。13節後半です。

〈主は〉「泣かなくてもよい」と言われた。です。なぜ「泣かなくてもよい」とおっしゃったのでしょうか。理由は14節、15節に書かれています。〈そして近寄って棺に手をかけられると、かっぴていた人たちが立ち止まったので、「青

年よ。あなたに言う、起きなさい」と言われた。すると、その死人が起き上がった、ものを言い始めたので、イエスは彼を母親に返された。〉がそうです。これが、神の為さる第三のことです。

二、奇跡の意味

これは単なる奇跡物語ではありません。もし青年を生き返られた奇跡がいつときの慰めをもたらすものであったなら、空しいです。生き返った青年が再び病気になるかもしれないし、青年がその後問題を起こして世間に迷惑をかけるかもしれないからです。あるいは、反対に親孝行息子になるかもしれません。いずれにしても、人は皆死にます。だったら、生き返った奇跡にどんな意味があるのでしょうか。

おそらく初期の教会は、この奇跡物語に、あるメッセージを受け取ったと思われまます。それは、イエス・キリストを死者の中からよみがえらせた命が青年に働いたことです。主イエスが行われた奇跡は、単に人々が驚くような奇跡ではありませんでした。私たち罪人を生かす奇跡でした。14節の「青年よ。あなたに言う、起きなさい」は、「青年よ。あなたに言う、復活しなさい」とも訳せる言葉です。主イエスは青年に復活の命を与えられたのです。青年はこの時に、単に生き返ったのではなく、霊が生かされて、神との深い交わりの生

活に入った、と読むのが適切かと思われまます。主イエスは、ヨハネの福音書において、ラザロが死んで墓に納められ四日もたつたとき、次のようにおっしゃっています。姉のマルタが次のように言ったからです。〈ヨハネ11・24b「私は、終わりの日のよみがえりの時に、彼がよみがえることを知っております。〉と。これを受けて、答えられました。〈ヨハネ11・25b「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことがありません。このことを信じますか。〉と。神が遣わされた救い主キリストに出会う者は復活の命に生かされます。そういうわけで、青年はその後の人生において神の栄光のために生きた、と受け止めるのが順当です。

三、死は勝利にのまれた

神は、痛みの中にある私たちに向かい「あなたに言う、起きなさい。復活しなさい」と語っておられます。そのことが実現するために、神であり人であるイエス・キリストが十字架で、私たちが受けなければならぬ、義なる神からの裁きを受けてくださいました。イエス・キリストを信じる者にとつて、死は私共を絶望に陥れるものでなくなりました。まさしく、死は勝利にのまれたのです。